1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775501071		
法人名	医療法人 貴島会		
事業所名	グループホーム ノーブル		
所在地	大阪府八尾市楽音寺6丁目45番地 (2階)		
自己評価作成日	平成26年3月31日	評価結果市町村受理日	平成26年6月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 MIRO谷町 4階
訪問調査日	平成26年4月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

木造2階建築で木のぬくもりが感じられるバンガロータイプのホームです。東に生駒山をながめ、自然に恵まれた静かな環境の中での共同生活。春には花見をしながら散歩、夏は盆踊りに参加、秋は庭の柿とり、冬はゲストを迎えての演奏会等、季節感を大切にしています。職員と一緒に手作り料理やおやつ、皆でのんびり楽しく過ごしています。

また、平成24年からは音楽療法を取り入れ心身ともに癒せる充実した施設となりました。

職員のほとんどが介護福祉士の資格を持ち、認知症介護実践研修終了者3名、介護支援専門員2名在籍し、介護面は充実、運営母体は病院であり看護師も在籍、医療面も安心できます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体は明治時代から続く病院で現在も総合病院として地域に貢献している貴島病院を中心とする医療法人貴島会である。介護保険制度開始後老人保健施設、ケアハウスから参入し当グループホームは13年前に開設された。元の看護師寮を改装しているが、和風の趣ある建物で、近隣住宅地の中に見事に溶け込んでいる。木造2階建てでエレベーターがないため、車椅子になれば居住が難しくなるが、病院、老健、特養など同法人内の適切な施設に移ることができ、利用者・家族の安心につながっている。

また、職員の入れ替わりが少ないことも特色として挙げられる。グループホームの基本である馴染みの関係づくりの点から大層好ましい。施設長と職員が強い協力関係で結ばれた職場環境の中で、入所者が家族的雰囲気にもまれ穏やかに暮らせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念「一人一人の人格を尊重したケアに努めます」「楽しく安心して生活できるようサポートします」「家族・地域との連携に努めます」をホームの玄関に掲げ職員全員で理念の共有と実践に努めている	法人理念とは別に事業所独自のわかりやすい理念を作っている。玄関、1階事務所、2階事務所の目につきやすい場所に貼り出している。職員はこれをよく理解し、実践を通して理念の実現を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームの駐車場を古紙回収場所や秋祭りの休憩場所に提供し、地域交流を深めるように努めている 防災訓練参加をきっかけに地域とのつながりができてきた	八尾市社協からのボランティアを受け入れ、催し物開催時には近隣にも声をかけ、参加がある。付き合いは深まっているが、今後さらに強化していきたいとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の活動、行事を通して認知症の人の理解をしてもらえよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホームでどのようなサービスが提供されているか運営推進会議で報告するようにしている 意見・提案があれば参考にしている	会議を通して市主催の防災訓練に参加し地域との交流が深まった。また事業所の訓練にも地域からの参加があった。会議の開催回数は規定に沿っている。	運営推進会議の開催は、共通の理解を得るためにも、利用者家族全員に周知し、又、議事録を渡されてはいいか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	八尾市介護保険課・社会福祉協議会と協力関係を築いている	各種手続き代行に市役所に行く機会に、交流している。市内グループホーム分科会に市職員の出席があり情報交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ならびに行動の制限に対する理解を職員全員で高めている	玄関は昼間は開いており、ブザーと見守りで対応している。2階から1階への下り階段の手前には、転落防止の柵を設置している。研修は個々のケースで実地指導をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事務所内に虐待防止のマニュアルがありいつでも閲覧できるようにして職員それぞれ防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ホームで権利擁護や後見人制度を受けている人もいるため制度については把握できていると思うが活用・支援までは困難である		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に重要事項説明を行い、不安・疑問点を確認、そして十分な説明を行い納得してもらう		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている また家族の面会時にしっかりとコミュニケーションをとり、意見や要望を聞き出せる体制をとっているが、意見箱の活用は難しい	全家族と月1回は話し合う機会を作りたいとの願いから、ホームへの料金支払いは、直接現金払いをお願いしている。ベッドの位置を変更したり、散歩の回数を増やすなど、家族の要望に応えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1～2度、個人面談をしている 必要があれば意見、提案を活かしていくように努めている	毎月1回職員会議を開催しており、活発な意見が出ている。また、各人の意向をじっくり聞くため、年1回個人面談もしており、要望などにはできるだけ応ずるように努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の努力、勤務状況を把握し働きやすい環境にするように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	利用できる研修があれば参加している 参加後は報告書、資料を閲覧するようにしている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	八尾市のGH分科会に参加して情報交換、交流に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に情報収集の為、多種のシート記入してもらう事で入居の際に受けるダメージを最小限に抑えるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者に関する情報などをしっかりと家族と話し合い信頼関係を保つようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学時などに家族から状況を聞き取り、場合によっては最適な他の施設などを紹介することもある		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「職員」「入居者」という立場の溝をなくし家族の様な関係作りを心掛けている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には面会を促し利用者と共に過ごす時間を提供、援助し利用者との距離を良い状態に保つようにしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	手紙での通信や友人、知人の面会等促し支援している	入所時に家族に記入して貰う「年代別の背景シート」で生活歴を知り、友人知人との連絡を支援している。自宅や墓参などへの訪問は、家族の同行で支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビング・ラウンジルームで過ごしてもらったり、レクレーションやクラブ活動を通して交流ができるように努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もしばらくは様子を確認し、必要に応じ支援するようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前に情報を把握し、入所してからもできるだけ環境の変化で影響がでないよう、思いや意向を取り入れるようにしている	意思確認の難しい人が多いので、しぐさや顔つきなどのサインから推測したことを、介護日誌に記入して申し送り、できるだけ利用者の意向に沿った支援ができるように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人情報(生活歴、他)を家族より入手し一人ひとりの情報を把握し介護に役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の状態や生活リズムに合わせ介護するよう努力している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に家族にも確認してもらい意見等あれば取り入れるようにしている 本人の状態に応じ計画を見直すこともある	基本的には、それまでのケア計画の実施状況について毎月モニタリングを行い、家族や必要な関係者と話し合っ、3か月ごとに現状に即した計画に見直している。状態に変化があれば、すぐ対応をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子を記録し、ケア会議を通して情報を共有し、計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変に対応するように努力している 本人に必要なと思われることであれば、幅広く柔軟に取り組むようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	推進会議を通して、高齢クラブ・民生委員・地域包括支援センターとの交流を深め、できるだけ積極的に行事に参加している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医の確認をとっている	入所後のかかりつけ医は、本人、家族の希望により決めている。協力病院での受診は、職員が通院介助をし、その他の医院の受診は、家族の介助となっている。受診の結果は、相互に状況を伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な受診のサポートや状態の変化、緊急時の対応など必要に応じて協力病院との連携に努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	月1回の協力病院での会議(老人福祉委員会)を通し情報交換をしている 問題があれば相談し協力病院との関係を保っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期受診で変化があれば家族に報告する また、レベルダウン等あれば家族と話し合い 家族の要求も加味しながら支援している	重要事項説明書に重度化した場合の方針を載せている。重度化した場合は入院または福祉施設への入所となり、グループホームでの看取りは考えていない。このことは、入所当初に家族に説明している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	八尾市の救急救命訓練を職員全員が受講して いて応急処置マニュアルが閲覧可能な状態で整理されている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に実施している 八尾市消防署との連携・職員の緊急連絡網も徹底している	利用者、近所の方も参加して避難訓練を実施している。地域の訓練に職員が参加して連携が深まった。有事の際には法人内の老健が近いので応援体制がある。	火災だけでなく、色々な災害別の実際に即した事業所独自のマニュアルをつくり、すべての職員が訓練を積み重ねていくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重は理念の一つである 言葉使い、排泄介助、入浴介助などは十分注意し対応している	人格の尊重はホームの大切な理念であり、言葉遣い・態度などは職員の身につけている。書類管理も適切にされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の場面、場面で意思確認し、自己決定してもらおう場면을意識的に作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課は一応あるが起床時間、食事時間、レクレーション参加などは本人のペースに合わせた支援をしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人の好みや意向を考え、対応している 身だしなみや朝の洗面で気分良く過ごしてもらおうようしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みも把握できていて職員と一緒に食事をしている また職員と共に準備や片付けをしている	献立から、調理まで自前で行われている。当番で毎食の検食をしており、改善に活かされている。食事時には懐かしいBGMが流されている。時には外食を楽しんだり、戸外でピクニック気分を味わうこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量をチェックしている 10、15時と水分補給の時間をとっている 協力病院(法人病院)の栄養士の助言を受けている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは毎食後している 自己にてできる人は見守り、声かけをしてもできない人へは介助し口腔内の清潔保持に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄チェック表を作成パターンを把握しそれを基にトイレ誘導を行っている	排泄記録で職員は各利用者の排泄パターンを把握、共有し、トイレ誘導をしている。パットやリハビリパンツ使用の人も、支援により全員トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の工夫や水分補給を促したりしている便秘時はチェック表で確認し、個々に対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前、午後と声かけし入ってもらう拒否があった時は再度声かけで入ってもらうよう努めている	一般的な浴槽を使用し、3方向から介助ができる。中には入浴拒否が強い人もいるが、いろいろ工夫して清潔が保てるように努力している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠できるよう室温の調節、寝具類の清潔保持に努めている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の確認はチェック表で実施一人ひとりの内服薬説明書リストでいつでも確認できるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々のレクリエーション、クラブ活動、家事手伝いなどで支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出、外泊を促したり、ホームでの行事、買物(個々)散歩などで気分転換してもらえるよう支援している	外出希望者には個別に対応している。又、行事として花見やいちご狩り、初詣、外食など実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者同士のトラブル、紛失などあるためホーム内では持たないようにしている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いたら職員と一緒に散歩がてら投函したり必要であれば電話もしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームが木造りのためか落ち着くようである 天窓等で自然光が入り居心地が良いと思う	築年数は古いですが、今でも斬新さを感じさせる木造建築である。所々に絵画や利用者の作品が展示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	就寝時のみ居室という人が多い 日中はリビング・ラウンジルームで過ごし自然に居場所ができているように思う		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、利用者が大切にしている物など、居室に置き居心地良く過ごせるよう心掛けている 認知症の進行で使い慣れた物でも危険があると判断した場合は家族に引き取ってもらうこともある	仏壇や故人の写真が置かれている部屋もあり、その人らしさが感じられる。部屋の窓から、生駒の山並みや近くの畑が見え、季節が身近に感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不安、混乱のないように、精神面での配慮をしながら危険の防止に努めている		